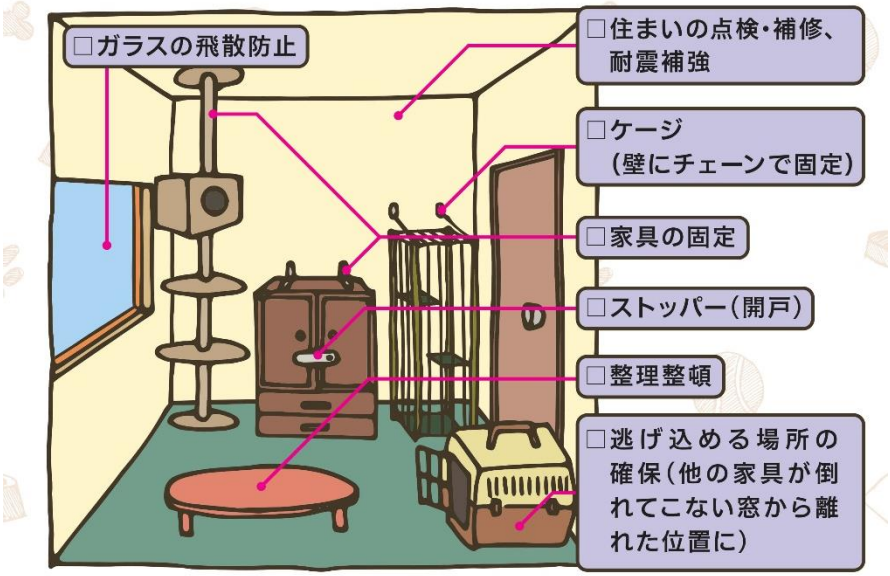
住まいの安全対策



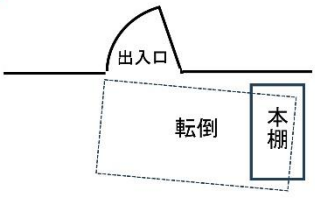
□ 住まいの点検・補修、耐震補強

耐震基準	耐震の考え方	耐震強度	法改正
旧耐震基準 昭和56年5月	震度５程度の地震に耐えうる 地震のための設計をほどんどしていない	危険 大地震で倒壊する危険性大	昭和25年 建築基準法の施行 昭和46年 建築基準法施行令改正
新耐震基準 平成12年	震度６強の地震で倒れない ◆壁量既定の見直し 耐震性は強化されたが法的な拘束力がない	要注意 耐震性のない建物が数多く存在している	平成７年 耐震改修促進法の施行
現行の基準	震度６強の地震で倒れない ◆壁の配置バランス ◆基礎について ◆指定の接合金物の使用等	一応安全	平成17年 建築基準法改正 平成18年 耐震改修促進法改正

住まいの安全対策は、対策グッズによるものだけではありません。そもそも自宅の危険度を知っておくことは、速やかな避難の判断にもつながります。また、自宅が危険な状態でのやみくもな在宅避難は大変危険です。参考に建築年数別の耐震強度の考え方を示したものを左に示しています。必要に応じて自宅の耐震診断なども活用し、自宅の危険度を認識しておきましょう。また、日々の点検で必要な補修を行い、いつ起こるかわからない災害に備えましょう。家の中だけでなく、周囲の安全もチェックしておきましょう。

□ 整理整頓、配置換え

✕転倒時に出入口を塞ぐような配置



✕ケージに被さって倒れるような配置

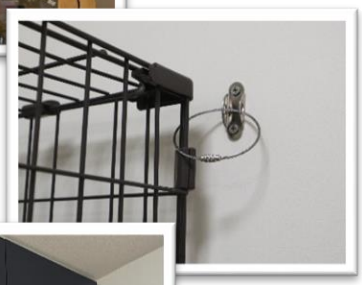
物の少ない空間は、落下や家具の転倒リスクを回避でき、スムーズな避難も可能になります。災害時に危険になるものがないかの視点でも、できるだけ整理整頓に努めましょう。また、同じ数の家具を置いていても、配置を工夫することで安全なスペースの確保が可能になります。家具が倒れない対策に加え、ケージやキャットタワー、その他ペットのお気に入りの場所に倒れないように配置しましょう。

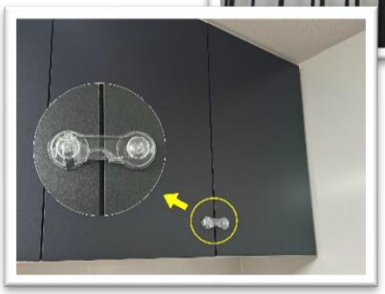
□ ガラスの飛散防止

飛散防止フィルムを窓ガラスに貼っておくと、ガラスが割れた際に破片の飛び散りを防ぐことができます。ガラスの破片はケガの原因になるだけでなく、避難の妨げにもなります。また、ガラスの抜け落ちた窓は、ペットの逸走の可能性も高めるため、ぜひ対策しましょう。

食器棚や本棚などにガラス部分があれば、同様に対策すると安心です。

□ 家具の固定、扉の固定





高さのある家具などは転倒防止用の突っ張り棒やベルト、L字金具などを活用し固定しておきましょう。さらに上下が分離する家具の場合は、連結しておくことも大切です。

電子レンジや炊飯器などの小型家電は、棚から落下する危険があります。滑り止めのマットや耐震用の足カバーを付けるなどしましょう。また、災害時に情報源となるテレビも専用の固定具などが様々に販売されています。

また、地震などの災害時には本棚や食器棚、冷蔵庫などの中身が飛び出し、非常に危険です。

開き戸用と引き出し用、それぞれのロックが販売されており、装着は簡単なものが多いため、まずはキッチンの吊戸棚や食器棚などに危険性の高いところから設置してみましょう。なお、これらのロックは扉を自分で開けてしまう猫の逸走対策などにも応用可能です。

□ 逃げ込める場所の確保

いざという時に、ペットが逃げ込める場所としてクレートやキャリーバッグ等を設置しておくと安心です。できるだけ他の家具が倒れてこない、窓から離れた位置に設置するよう心掛けてください。

この場合に使用するクレートの材質は、布などの柔らかいものよりも、プラスチック製や金属の骨組みなどが入ったある程度の衝撃にも強いしっかりしたものを選択するようにしましょう。

クレートやキャリーバッグ等が苦手なペットも、リビングの空間に設置してあげることで、警戒心が薄れ、入ることができるようになるので、まずは設置してみましょう。

クレート・キャリーバッグトレーニングについては、犬のしつけ（リンク）、猫のしつけ（リンク）に詳しく解説しています。

□ 屋外飼育場所の安全確保
□ リードや首輪の状態確認

犬を屋外で飼育している場合には、倒壊の恐れのあるブロック塀や割れたガラスが飛散する場所などを避け、できるだけ安全が確保できる場所で管理してください。また、台風など事前に予測ができる場合は、安全なおうちの中に入れてください。

また、犬をつないでいる係留用具（ポールや金具など）が緩んでいたり、首輪やリードがちぎれそうな状態になっていないか確認することが大切です。これらが命綱となる屋外では、特にしっかりと日々の点検を行い、ペットの安全を確保しましょう。